

令和２年度図書館事業評価

図書館計画に基づき、事業評価を、次の評価指標により評価を実施した。

評価指標

A：事業計画の目標に対し概ね達成している

B：事業計画の目標に対し一部達成している

C：事業計画の目標に対し課題がある

評価結果一覧

評価項目	一次評価 (図書館)	二次評価 (図書館 協議会)
基本方針 １ 資料の収集と保存の充実	B	A
基本方針 ２ すべての市民に活用されるために	B	A
基本方針 ３ 西東京市の文化・歴史を次世代に継承する	A	A
基本方針 ４ 未来を担う子どもの読書活動の支援	A	A
基本方針 ５ 地域、行政と連携した図書館サービスの向上	A	A
基本方針 ６ 効率的・効果的な運営体制の構築	A	A

基本方針 1 資料の収集と保存の充実					
令和2年度目標					
①館ごとの蔵書構成と利用状況をふまえて、大活字本の複冊購入や入替計画に沿った整備を進めます。 ②児童資料の保存のあり方について検討し、中央図書館の書庫の整備を進めます。 ③マルチメディアデージー図書の利用普及のため、機器の整備と利用マニュアルの作成を行います。					
令和2年度取組成果					
①・令和元年度のベストリーダーのうち、上位のものから現在でも購入可能な大活字本を4タイトル10冊追加購入しました。 ・令和元年度のベストオーダーから、児童書の利用が多いことが分かりました。大活字本の児童書は谷戸図書館、保谷駅前図書館で所蔵していましたが、令和2年度に購入した児童書14タイトル20冊を谷戸図書館、柳沢図書館、ひばりが丘図書館の蔵書にしました。 ・中央図書館とひばりが丘図書館の収納能力を考慮し、入替を実施しました。 <table border="1"> <tr> <td>中央図書館からひばりが丘図書館</td><td>281冊（ひばりが丘図書館所蔵591冊）</td></tr> <tr> <td>ひばりが丘図書館から中央図書館</td><td>173冊（中央図書館蔵書271冊）</td></tr> </table> ②・中央図書館の休館の準備と合わせ、各館書庫の整理と資料の移動を行いました。 中央図書館所蔵のすいせん図書や市内所蔵1冊の資料等を谷戸図書館書庫へ、またYAの1冊本等をひばりが丘図書館書庫へ、全体で2,100冊程度移動しました。 ・児童資料の保存のあり方を保存基準に合わせて検討した結果、ノンフィクション保存資料を谷戸図書館書庫から芝久保図書館書庫へ1,800冊程度移動しました。 ③・小学校の児童・教師に向けてマルチメディアデージーの活用を目的とした普及のためのマニュアルを作成しました。令和2年度の機器の入替に伴い、マルチメディアデージーの作成が可能なソフトを導入しました。		中央図書館からひばりが丘図書館	281冊（ひばりが丘図書館所蔵591冊）	ひばりが丘図書館から中央図書館	173冊（中央図書館蔵書271冊）
中央図書館からひばりが丘図書館	281冊（ひばりが丘図書館所蔵591冊）				
ひばりが丘図書館から中央図書館	173冊（中央図書館蔵書271冊）				
基本方針1の総合自己評価・今後の課題改善点					
①大活字本について入替の実施、児童書を複数館所蔵、一般書の複本購入、ノンフィクションの充実等、書架の活性化を図ることができました。今後も、利用状況をみながら充実を図り、また、入替計画に基づき活性化を図ります。 ②利用の多いすいせん図書や市内所蔵1冊の資料を他館に移動し、令和3年度の中央図書館休館に対応出来るようにしました。令和4年度の中央図書館再開に向けて、新刊の選定等調整をすすめていきます。 ③普及のためのマニュアルは作成しましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で事業を進めることができませんでした。マルチメディアデージーの資料を増やし、利用拡大に向けての準備を行うことはできました。今後は、新型コロナウイルス感染症の状況をみながら、教育指導課と協力して進めていきます。	B				

図書館協議会委員による二次評価	
3つの目標に対して堅実に成果をあげられたと思います。今後、大活字本については、利用状況の把握を行い、見直しを継続的に行ってください。児童書については、最新情報に基づくノンフィクションの収集にも気を使い、過去の情報も追える保存の在り方を検討してください。	A

基本方針 2 すべての市民に活用されるために
令和2年度目標 ①宅配サービスの利用拡大のため、市および図書館ホームページや図書館だより等の広報を活用してPRに努めます。 ②多文化理解のためのサービスは、他部署や地域で活動する団体と連携しながら、日本語を母語としない人の利用及び多文化理解の促進を図ります。 ③課題解決支援コーナーに関連した講演会・講座を実施します。 ④資料やインターネット情報の活用の促進を図るため、レファレンス講座や講習会を実施し、利用者の調査・研究を支援します。
令和2年度取組成果 ①広報としては館内ポスター、チラシに加え、新たに図書館ホームページのWebギャラリーへの掲載や、西東京市社協だより（3月1日第83号）にも掲載し、PRを強化したところ、新たに9人の利用登録があり、全体で22人（定期・不定期含む）となりました。 ②令和元年度に日本語ボランティア教室よりアンケートでいただいた意見をもとに、日本語学習コーナーを設置して利用の推進を図りました。 設置場所：中央図書館、ひばりが丘図書館、保谷駅前図書館 設置内容：日本語を学習するための本、日本のことを知るための本、日本語レベル別よみものの広報等：図書館だよりやホームページを通じてコーナー開設のPRをしました。 また、多文化理解の促進を図るため、以下事業を実施しました。 （1）多言語おはなし会「いろいろなことばでたのしむおはなし会」 英語、中国語、韓国語を母語とする人による読み聞かせ 11月～3月まで計11回実施（親子29組68人参加） 満足度80% （2）多文化講座（オンライン）「絵本で楽しむ英語の世界」 講師：鈴木祐子氏（ABC4YOU 英語教室 自由が丘代表） 参加者：11人 満足度90% （3）多文化理解のための企画展示 場所：ひばりが丘図書館（1月）、中央図書館（3月） 内容：アイヌ文化を知ろう 満足度60% 場所：中央図書館（11月） 内容：英語絵本の展示 満足度90%

③新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言発出による休館、新しい生活様式に基づいた制限付き開館のため、当初予定していた通常の講演会・講座は中止し、新たに下記の通り対応しました。

《新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言発出による休館時の対応》

図書館ホームページに『自宅で読める電子書籍等のご紹介』をまとめて掲載・更新

アクセス数（7月15日～3月31日）Webギャラリー：2,599件 本ページ：13,446件

図書館ホームページに『新型コロナウイルス関連情報』をまとめて掲載・更新

アクセス数（3月18日～3月31日） 194件

《新しい生活様式に基づいた制限付き開館時の対応》

本束（ほんたば）展示

期間：令和2年12月1日から令和3年3月31日まで 場所：西東京市内全館

滞在時間制限により、ゆっくり本を選んだり閲覧したりすることに支障がある状況の中で、利用者と本の出会いをフォローするため、テーマごとに選んだ本のセットを貸出しました。また、展示終了後もリストとして活用できるよう、テーマと使用した本をホームページに掲載しました。

④利用者の調査・研究の支援

・新型コロナウイルス感染症対策の影響で講座や講習会は実施できませんでした。

・ただし、来館に制限がかかる状況下で市民の調査研究をサポートするため、Webレファレンスの広報の強化を図りました。具体的には西東京市ホームページのトップ画面にWebレファレンスの案内サイネージ「？があったら図書館へ！」を掲載しました。

【Webレファレンスの問い合わせ件数】

令和元年度（2019）	24件
令和2年度（2020）	38件

基本方針2の総合自己評価・今後の課題改善点

- ①図書館外でのPRは一定の効果があり、利用拡大につなげることができました。今後も市内巡回バスの広告等を利用し、図書館内に限らずPRを行っていく予定です。
- ②臨時休館に伴う書架整理によって、日本語学習コーナーをつくることができました。図書館だよりやホームページを通じてコーナー開設についてお知らせしましたが、今後はこの図書を活用いただけるような工夫をしていきたいと思います。また、多文化理解につながる事業の実施についても状況に応じた事業提案をしていきたいと考えています。
- ③かねてより利用者参加型企画の要望が多く、近年は利用者と対面で行う講演会や講座を主に行ってきました。今後しばらくは今までと同じ形で継続するのは難しいと考えられるため、オンライン等の手段を活用することや、即時性のない参加型企画を検討する必要があります。
- ④来館制限下において調査支援のアプローチは一定の効果을上げる事が出来ました。今後は講演会の実施方法の検討をしていきます。

B

図書館協議会委員による二次評価	
各目標に向けて、一定の効果があがっていると評価します。多文化理解のためのサービスとして、日本語学習コーナーを設置し、利用促進のための行事や企画展示を行ったことは評価できます。その中では、オンラインで行った講座の満足度が高いことから、同様の企画を今後も積極的に展開することが望まれます。課題解決支援コーナーに関連した講演会、講座が中止になったことは残念でしたが、ホームページを活用した情報発信やWebレファレンスなどを積極的に行っています。参加型の事業展開が難しい現状を踏まえて、今後もICT（Information and Communications Technology：情報通信技術）を積極的に活用する工夫を期待します。	A

基本方針 3 西東京市の文化・歴史を次世代に継承する
令和2年度目標
①西東京市に縁（ゆかり）のある人物情報・関連情報を図書館ホームページや講演会等で積極的に発信するとともに、収集を継続します。 ②Web公開した西東京市の地図や古文書、市史等歴史的資料の利活用の促進に向けて、追加の公開と積極的な広報に取り組めます。
令和2年度取組成果
①（1）講演会の実施 10月17日 谷戸公民館 ・在住 石井正己氏による講演会 ＜文学から見た感染症＞ - 正岡子規・石川啄木と結核」 参加者：20人 満足度：回答18人平均 93.27% 「与謝野晶子・志賀直哉とスペイン風邪」 参加者：21人 満足度：回答19人平均 94.69% （2）ホームページ「縁」コーナーの更新 講演会の実施や寄贈情報の追記を随時更新しました。 ②Web「西東京市デジタルアーカイブ」に「田無・保谷のおはなし」として創作紙芝居を令和3年3月1日に追加公開しました。 ・「西東京市デジタルアーカイブ」サイトのアクセス数 - 年間 トップページ：5,356件・総数：103,463件 1ヵ月平均 トップページ：446件・総数：8,622件 ・「田無・保谷のおはなし」概要 掲載した大型紙芝居8点は、昭和55年から平成23年の間に市民グループ「田無絵本を考える会」と「ぐるーぷ絵本」が地域の昔話などをもとにして創作した全場面オリジナルの手作りの作品です。完成後は図書館に寄贈され、学校や各種団体によるおはなし会等の行事で現在も活用されています。丁寧かつ丈夫に作られていますが、古いものは40年が経過しており、劣化が懸念されています。唯一無二であるため保存も活用も必須であり、同時に大きく重いこともあり、個人向けに気軽に提供できないことも課題となっています。 作品のデジタル化とWeb公開について、紙芝居の制作に係わった方々にご理解を得られ

たことにより、前出の課題解決と貴重な作品を広く発信して提供することを目的として、紙芝居のデジタル公開に取り組むことができました。

公開にあたり、各場面に合わせて脚本の朗読音源を同時に視聴できる仕組みを加え、朗読については、市内在住で読み聞かせや朗読劇などの活動をされている方々に協力していただくことができました。

【対象資料】

1. たなしむかしむかし
2. 消えたおじぞうさんの首
3. さざんかになったさよ
4. けんちゃんしずく号にのる
5. たぬき山ときつね山
6. きぬ姫ものがたり
7. しょう太となんじゃもんじゃの木
8. しょう太とタカ狩り

基本方針3の総合自己評価・今後の課題改善点

- ①コロナ禍での時世に沿ったテーマの講演会は高い評価を得ました。開催時期・時間や方法について、市内在住の講師と協議を重ね、例年より定員を減らすなど感染拡大防止に留意した環境で実施できました。翌年には、講師が講演会の内容を含めた関連図書を出版する予定があり、縁の関連資料の収集につなげることができると考えています。
- ②「西東京市デジタルアーカイブ」に公開した資料の紹介と活用促進につながる事業の立案に注力します。

A

図書館協議会委員による二次評価

コロナ禍のなか、時節を捉えたテーマの講演会を実施され、参加者から高い満足度を得ています。また、Web「西東京市デジタルアーカイブ」に「田無・保谷のおはなし」の創作紙芝居が加わり、今後の展開を楽しみにしています。図書館にとってデジタルアーカイブは大切なサービスです。たとえば、市内の歴史的な写真を収集し、アーカイブに組み込むなど新たな領域も検討して頂きたいと思います。

A

基本方針 4 未来を担う子どもの読書活動の支援

令和2年度目標

- ①読書のきっかけ作りとして、子どもの年齢に合わせた興味を引く展示を継続的に実施します。
- ②団体貸出用すいせん図書パック「いいね！！西東京市おすすめ（セレクト）本」の利用促進を図ります。
- ③絵本と子育て事業（ブックスタートとフォロー）を継続して実施し、子どもと保護者の読書活動を支援します。

令和2年度図書館事業計画主要事業より

（1）第4期西東京市子ども読書活動推進計画の策定

令和2年度取組成果

- ①3から5歳の幼児を対象とした絵本を同テーマで3冊選び、専用の紙袋に入れ「福袋」形式で利用者が選び貸出する「絵本のお楽しみ袋」を開始しました。

絵本のお楽しみ袋（全館実施令和2年8月13日から令和3年3月31日）

セット数	貸出回数	回転数
137	830	6.1

- ②図書館内の滞在時間の制限に伴い、団体へ団体貸出用すいせん図書パック利用を促しました。
西東京市おすすめセレクト本団体貸出し推移

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
小学校	6校（35パック）	6校（66パック）	12校（135パック）
学童クラブ	7か所（14パック）	2か所（6パック）	2か所（2パック）
児童館	2か所（2パック）		

- ③絵本と子育て事業

健診会場での実施が出来ないため、図書館カウンターまたは郵送で健診対象者に絵本を配布しました。1,179人に配布。配布率81.2%

健診対象者に健康課より、絵本プレゼント券配布（カウンター配布用）4月～11月

郵送希望ハガキ使用（カウンター配布、郵送用）12月～3月

3歳児フォロー事業：コロナ禍による会場使用不能のため実施せず。

令和2年度図書館事業計画主要事業より

（1）第4期西東京市子ども読書活動推進計画の策定

7月2日以降、懇談会7回実施。

パブリックコメント 実施期間：令和3年1月15日から2月14日 提出結果2件（2人）

令和3年3月公表。

基本方針4の総合自己評価・今後の課題改善点

コロナ禍により事業を中止せざるを得ない一年でしたが、「絵本のお楽しみ袋」の貸出の実施や、「絵本と子育て事業」での絵本の配布を図書館カウンターでの受け渡し・郵送での送付に切り替えるなど、状況に対応してすすめてきました。3歳児フォロー事業については健診会場が使用できないため、今後は会場の調整を行う予定です。

「子ども読書活動推進計画」の策定においてもコロナ禍の影響を受けつつも、年度内に完成・公表に至りました。

団体貸出用すいせん図書パック「いいね！！西東京市おすすめ（セレクト）本」は、来館での選書が難しい状況から、利用が大幅に伸びました。今後も活用は増えると思われます。

西東京市図書館計画【基本方針4】（3）学校との連携・協力支援をすすめます に基づき、これまで小学校の施設見学や図書館の時間といった図書館来館での対応を、令和2年度は訪問授業として、司書が小学校に出向き図書館利用についての案内や本の紹介等を行うといった形で実施しました。今後も訪問授業は増えていくと思われます。

A

学校名・実施内容	実施日	実施回数	参加人数	平均人数
柳沢小学校2年生 訪問授業	令和2年10月1日	3	88	29.3
けやき小学校2年生生活科「みんなでつかうまちのしせつ」訪問授業	11月19日	3	100	33.3
中原小学校2年生「図書館へ行こう」	12月3日	1	136	—
東小学校2年生「町たんけん」訪問授業	令和3年2月25日	3	74	24.7

今後もコロナ禍における事業形態の調整も考慮しつつ事業をすすめていきたいと考えています。

図書館協議会委員による二次評価

「絵本のお楽しみ袋」を始めるなど、コロナ禍での創意工夫が見られます。団体貸出用すいせん図書などについては今後の活用も増加すると予想されています。さらに種類を増やすなどの工夫が行われることを期待します。学童クラブや児童館で利用されなかったのは残念でした。生活の場・くつろぎの場に来る子どもたちの好奇心や楽しみに沿うセレクトパックの検討を期待します。

また、3歳児健診時の3歳児フォロー事業も大変良い事業ですので実施可能な方法について検討を行ってください。

今後は、今回の取り組みから取り残されてしまう家庭と子ども達に手を差し伸べる事業展開を期待します。

A

基本方針 5 地域、行政と連携した図書館サービスの向上	
令和2年度目標	
①新たな音訳者の養成と音訳者の技術向上のため、初級養成講座・専門研修を実施します。 ②宅配ボランティアへの研修を継続的に実施するとともに、サービス充実のため引き続きボランティアの募集を行います。	
令和2年度取組成果	
①新たな音訳者の確保・育成のため、初級と中級養成講座を毎年交互に開催しており、令和2年度は10期生（9人）の初級養成講座を全10回実施しました 専門研修は新型コロナウイルスの感染拡大防止の措置として開催を断念しました。 ②図書館ホームページ・館内ポスター等で募集を行い、新規で7人の宅配協力員が登録し、全体で16人の体制で宅配サービスを行いました。 新しく登録した宅配協力員には、登録時に職員から宅配サービスについての研修を行いました。はじめて利用者へ宅配サービスを行う際には職員も同行し、実際の流れを確認しました。また、新型コロナウイルス感染拡大防止対策での三密を避けるために、利用者のサインの省略、置き配等により、宅配協力員と利用者の双方の感染対策を考慮した上で実施することができました。 また緊急事態宣言に伴う休館中は職員が対応し、宅配サービス利用者にもサービスが滞ることがないようにしました。	
基本方針5の総合自己評価・今後の課題改善点	
①養成講座は通常20人程の定員を目安にしていますが、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、今回については人数を10人以内に絞り選考しました。令和3年度に中級養成講座等を受講してもらい、音訳の会に登録の予定です。令和3年度はテキストディジー研修や全体研修を行いながら、音訳の会全体の育成・レベルアップを図ります。 ②図書館ホームページのWebギャラリーへの掲載は効果があり、これによる新規の宅配協力員の応募がありました。必要な人数が登録されたことで現在は未掲載ですが、宅配利用者数を適宜考慮しながら、Webギャラリーへの再掲載も含めPRを行っていく予定です。	A
図書館協議会委員による二次評価	
図書館利用に困難がある市民に対して、音訳者や宅配ボランティアの協力は大切です。音訳者の養成のための「初級養成講座」の縮小実施、「専門研修」の開催断念については、コロナ禍でのやむを得ない事情と思います。与えられた状況下で、今後も工夫しながら最善の努力を継続していただけることを希望します。 また、宅配サービスについては新規の応募があり、参加者の研修も行われたことで成果が出たものと思います。 ボランティアと職員の役割と連携が相互に無理が生じないように定期的な業務見直しや研修を続けて今後も質の高いサービスの提供に努めてください。また、このサービスは図書館員が市民の生活の場に赴き、その要望を聞くという大切な場であることも押えておいてほしいと思います。	A

基本方針 6 効率的・効果的な運営体制の構築	
令和2年度目標	
① 行政職員として必要な知識を習得するため、窓口対応(接遇対応)などの研修を実施します。 ② 中央図書館・田無公民館耐震補強等改修実施設計を実施します。 ③ 図書館計画に基づく実施事業の自己評価を行い、図書館協議会による二次評価を実施します。	
令和2年度取組成果	
① 職員を対象とした、会計事務研修、クレーム研修、ハラスメント研修、情報セキュリティ研修等に参加しました。専門員を対象としたレファレンス研修等を実施しました。 ② 設計業者、建築営繕課、図書館及び公民館と複数回打ち合わせを持ち、実施設計を作成しました。 ③ 令和元年度図書館事業評価について自己評価として一次評価を実施し、第2回臨時会において協議会による事業評価(二次評価)を決定し、その後教育委員会に報告しました。	
基本方針6の総合自己評価・今後の課題改善点	
① 外部研修がリモート研修に中心となる中、双方向性を維持した研修への参加が限定されました。今後は技術的な課題の克服に取り組み、リモート環境においても十分に効果のある研修への参加が可能となるように取組みます。 ② 実施設計を基に耐震補強等改修工事を安全に実施し、令和4年度に中央図書館を再開できるように取組みを進めます。	A
図書館協議会委員による二次評価	
3項目とも成果があがったものと評価します。行政職員としての研修を目標としていますが、合わせて図書館員の専門研修への参加も進めてください。 また、コロナ禍のなか、ICTを活用した館内研修や会議などが行える体制整備を図ることも必要だと思います。	A